
チェーンドラッグストア業界における 標準化検討状況

平成20年2月

日本チェーンドラッグストア協会

本日のご報告内容

1. チェーンドラッグストア業界における標準化への取組み
のきっかけと狙い
2. 今年度の到達点
3. 今後の予定

1. チェーンドラッグストア業界における標準化への取組み のきっかけと狙い

- 日本チェーンドラッグストア協会の概要
- チェーンドラッグストア業界の売上規模
- カテゴリーマネジメントへの取り組み
- ドラッグストア業界を取り巻く環境変化:改正薬事法
- リスク別にみた販売時の情報提供
- 平成19年度事業の目標
- 検討体制

2. 今年度の到達点

3. 今後の検討課題

日本チェーンドラッグストア協会の概要

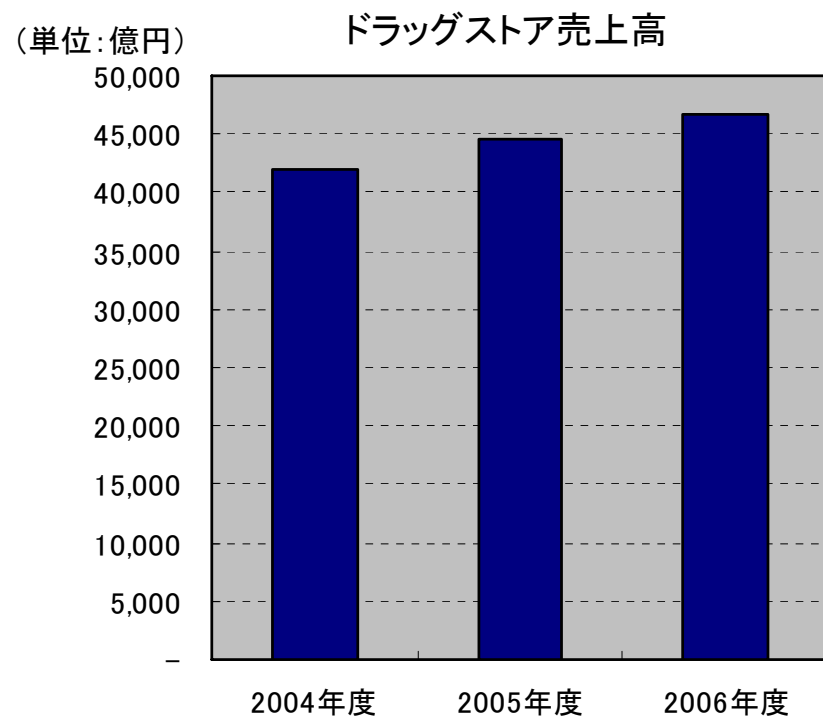
発足 1999年6月16日
会長 松本 南海雄(初代より継続)
(株)マツモトキヨシ 代表取締役)
会員 正会員 約200社、賛助会員 約250社

活動方針

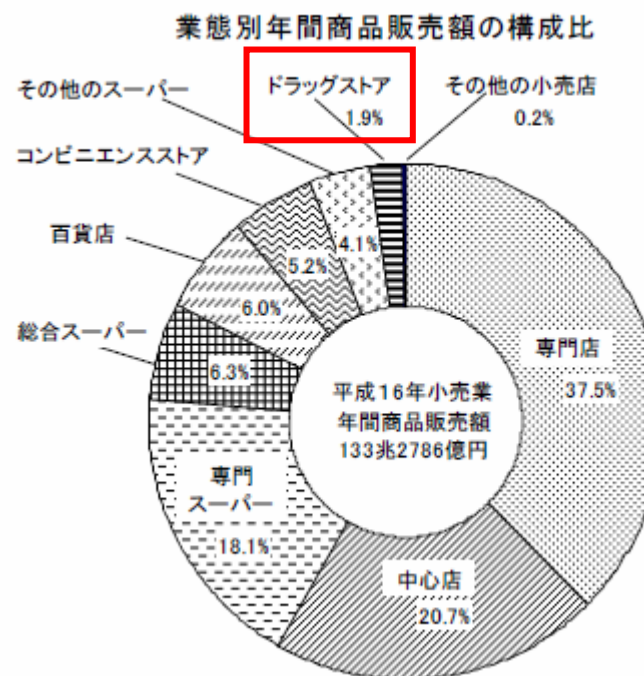
1. ドラッグストアのマーケット及び産業拡大
2. 事業効率化のためのインフラの整備
3. 社会的地位・位置づけ向上
4. セルフメディケーションの推進と受け皿

チェーンドラッグストア業界の規模

ドラッグストアの売上高は4.7兆円（2006年）
全小売業の約2%の売上規模



出所: 日本チェーンドラッグストア協会



出所: 経済産業省平成16年度産業統計

業界標準システムを整備し、さらなる発展を！

カテゴリーマネジメントへの取り組み

| | |
|-------------|--------------------------------|
| 2002年6月 | ドラッグストアの正しい成長点を考える |
| 2003年2月 | 平成14年度事業として委員会発足 カテマネの概要説明会 |
| 2003年7月 | カテゴリーマネジメントセミナー |
| 2004年2月 | 製配販から成る委員の共通認識化と報告会の開催 |
| 2005年2月 | 食品スーパー業界におけるカテマネ取組み事例報告 |
| 2006年2月 | ドラッグストア業界におけるカテマネ取組み事例報告① |
| 2007年3月 | ドラッグストア業界におけるカテマネ取組み事例報告② |
| 2008年2月(予定) | ドラッグストア業界におけるカテマネ取組み事例報告③ |

思うようにカテマネの取り組みが進まない...

業界標準システムインフラの不備が問題

ドラッグストア業界を取り巻く環境変化：改正薬事法

経済産業省 平成19年度
流通システム標準化事業

- 一般用医薬品をリスク別に3つに分類
- リスクの程度に応じて、消費者が必要十分な情報を得られる販売方法を導入
- 分類や販売資格の変更などの施策が段階的に実施、平成21年6月に完全施行

| | A | B | C |
|------|--|--|---|
| 主な成分 | <ul style="list-style-type: none"> ・シメチジン ・塩酸ラニチジン ・ファモチジン ・ミノキシジル <p>(30成分)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・アセトアミノフェン ・イソプロピルアンチピリン ・イブプロフェン ・塩酸ジフェンヒドラミン ・テオフィリン ・スクラルファート ・アクリノール ・アミノ安息香酸エチル <p>(733成分)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ビタミンB1 ・ビタミンB2 ・ビタミンB6 ・ビタミンB12 ・ビタミンC ・ビタミンE ・塩化セチルピリジニウム ・ポビドンヨード ・塩化リゾチーム <p>(1775成分)</p> |
| 主な製品 | <ul style="list-style-type: none"> ・ガスター10 ・パンシロンH2ベスト ・三共Z胃腸薬 ・リアップ | <ul style="list-style-type: none"> ・バファリンA ・イヴ ・ナロンA ・イノセアプラス錠 ・バンテリンコーワ ・パテックスID ・キューピーコーワゴールドA | <ul style="list-style-type: none"> ・アリナミンA ・ハイシー1000 ・ワムナールプラスローション ・オイラックス潤乳液 |

リスク別にみた販売時の情報提供

| | A | B | C |
|------|------------------------------------|--|------|
| 情報提供 | 薬剤師 (義務) 説明文書 | 薬剤師 登録販売者 (努力義務) 説明文書 | (無) |
| 相談応需 | (義務) | (義務) | (義務) |

改正薬事法 第三十六条の六

薬局開設者又は店舗販売業者は、その薬局又は店舗において第一類医薬品を販売し、又は授与する場合には、厚生労働省令で定めるところにより、医薬品の販売又は授与に従事する薬剤師をして、厚生労働省令で定める事項を記載した書面を用いて、その適正な使用のために必要な情報を提供させなければならない。

平成19年度事業（チェーンドラッグストア業界における流通システム標準化の検討）の目標

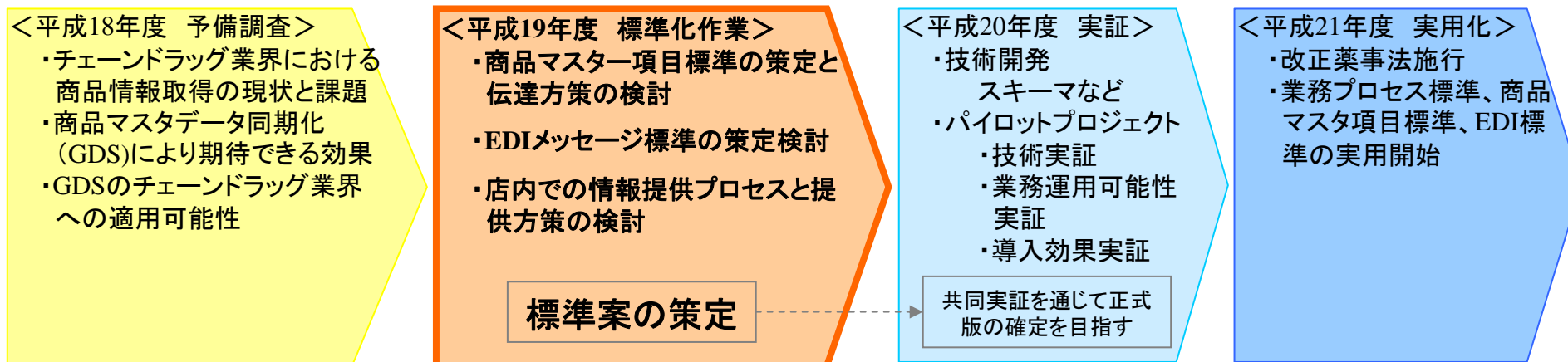
経済産業省 平成19年度
流通システム標準化事業

- 平成21年4月の改正薬事法施行への円滑な対応だけでなく、店頭業務の効率化・高度化をも目指して、①～③を実施する。

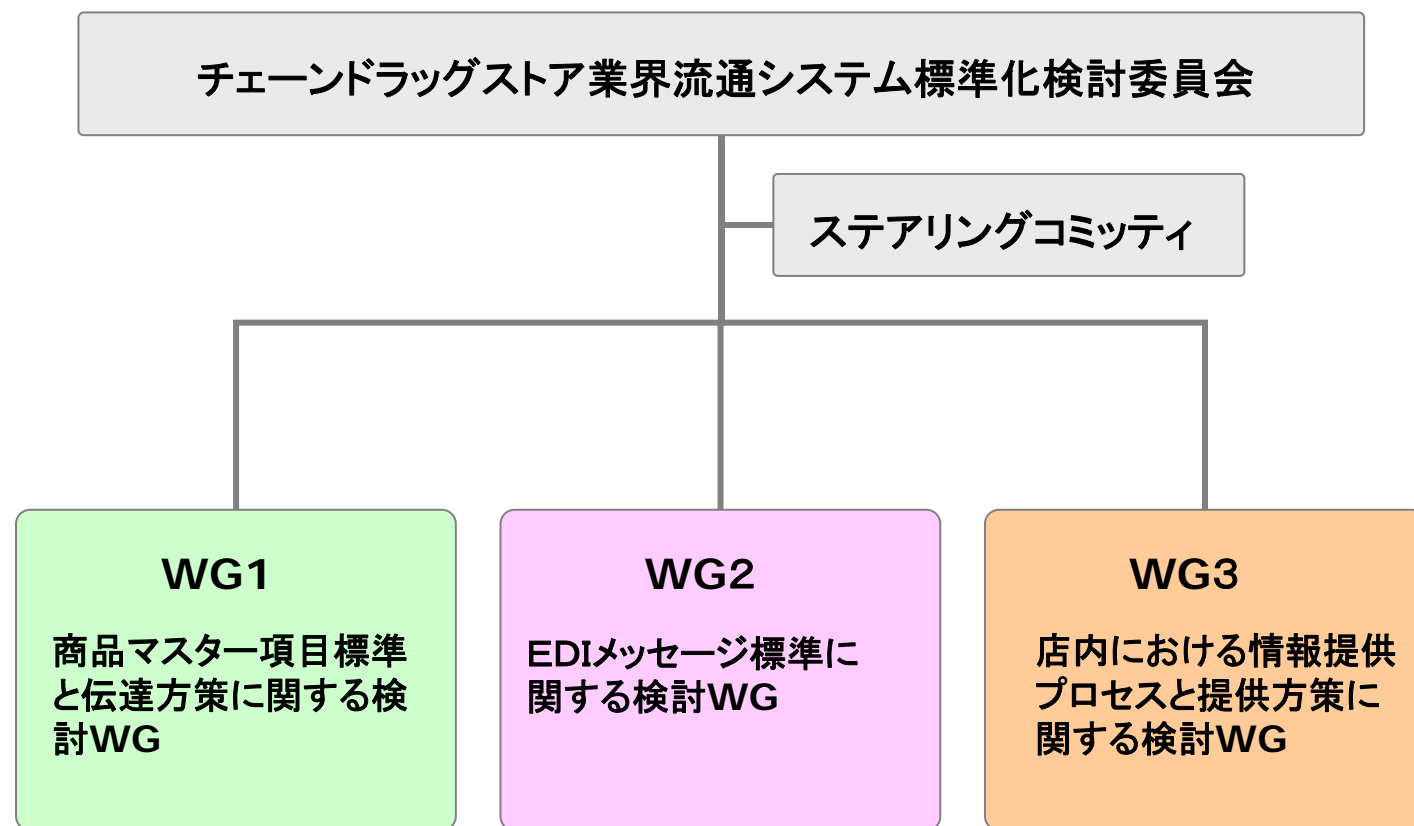
- ①チェーンドラッグストア業界に対応した、商品マスター項目標準案の策定と伝達方策の検討
- ②チェーンドラッグストア業界に対応した、EDIメッセージ標準案の策定検討
- ③店内における情報提供プロセスと提供方策に関する検討

■ 平成19年度事業の目標

上記で策定した商品マスタ項目標準案、EDIメッセージ標準案をチェンジ・リクエスト(変更依頼)が出せるレベルまで業界として意見を集約すること



検討体制



【委員会】

- ・WG活動結果について報告を受けて、検討・指示、承認する

【ステアリングコミッティ】

- ・委員長、副委員長、各WGのリーダー・サブリーダーで構成する。
- ・必要に応じて、WG間の情報共有・各WGでの検討結果の統合化を行う。

【ワーキンググループ】

- ・実務レベルの検討を行う。検討結果を委員会へ報告する。
- ・委員会での指示を受けて、検討内容を修正する。

本日のご報告内容

1. チェーンドラッグストア業界における標準化への取り組み のきっかけと狙い

2. 今年度の到達点

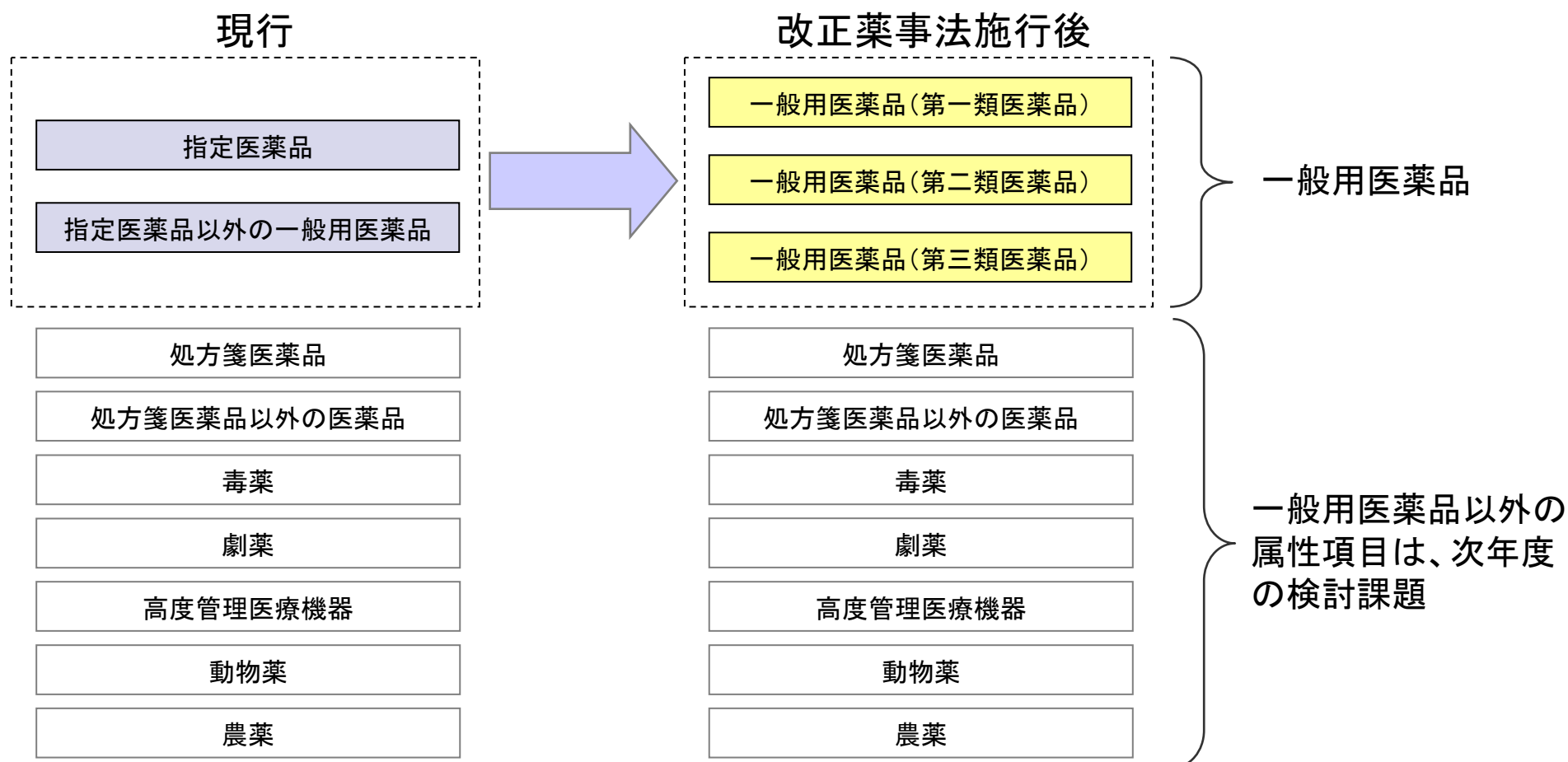
- 商品マスター項目標準と伝達方策に関する検討(WG1)
- EDIメッセージ標準案の策定検討(WG2)
- 店内での情報提供プロセスと提供に関する検討(WG3)

3. 今後の予定

商品マスター項目標準の策定

①一般用医薬品を取り扱う上で必要な商品マスタ項目

- 現行薬事法での医薬品区分の項目と、改正薬事法での医薬品区分の項目が必要。現行法からの移行を考慮し、「現行薬事法での医薬品区分」と「改正薬事法での医薬品区分」を別項目として持つ。



商品マスター項目標準の策定

②説明文書の情報提供に対応するための項目

- 現時点で、説明文書に関して厚生労働省からの指針が出ていないため、用法・用量、対象者、効能、副作用情報、成分の5項目を想定。
- 桁数、データ型、コード体系等の具体的な検討は、次年度の課題。

現行の添付文書に記載されている項目

説明文書に含まれる
と想定される項目

| 項目 | | 記載内容 |
|-----------------|--------|--|
| 使用上の注意 用法・用量 | 服用上の注意 | 服用してはいけない人 服用中・服用後にはいけないこと 服用にあたり医師または薬剤師に相談すること |
| | 副作用 | 服用後の症状に関する記載など |
| 効能・効果 | | 対象となる症状など |
| 用法・容量 | | 製品の利用の仕方など |
| 成分・分量 | | 含まれている成分名・量 |
| 保管及び取り扱い上の注意 | | 保管方法など |
| 問い合わせ先 | | 製品メーカー 窓口、対応時間帯など |

用法・用量
対象者
効能
副作用情報
成分

商品マスター項目標準の策定

③一般用医薬品以外の商品を取り扱う上で必要な商品マスタ項目

■ 検討方法

- チェーンドラッグストア業界で使用されている項目であるが、加工食品・日用雑貨分野の標準マスタ項目に含まれていない項目を調査（医療用医薬品を除く）。
- 標準化を検討する範囲を商品基本情報に限定。

■ 検討結果

- 「保証書発行フラグ」が必要
 - ◆ 電子血圧計など医療機器を店舗で販売する際に、POSレジで保証書を印字するため

■ 検討課題

- アソート区分
 - ◆ 小売企業が、複数JANで構成されるセット品をセットJANで（割安価格で）仕入れ、セットをバラして単品で販売している
- 値引区分
 - ◆ 値引・割引対象商品かどうかの判断に使用
- 返品可否区分
- 関係依存項目

凡例

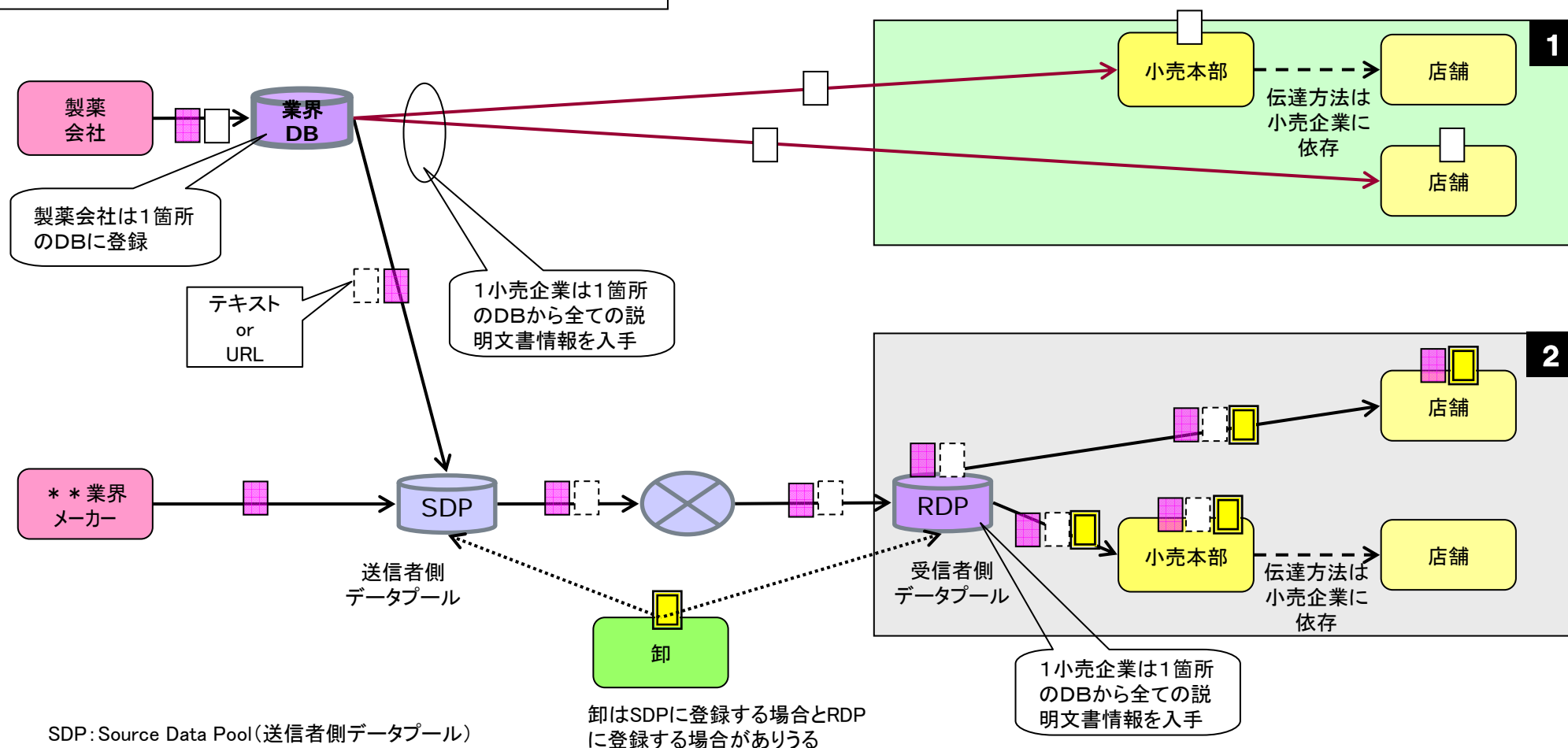
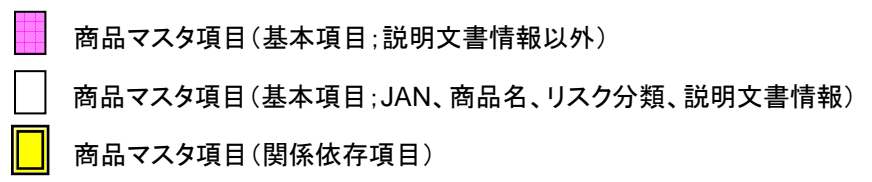
-
- Figure 1 is a data flow diagram illustrating the pharmaceutical industry database system. The diagram shows the flow of data from manufacturers (製薬会社) and industry databases (業界DB) through a data pool (SDP) and a router to a receiver's data pool (RDP) and then to various retail outlets (店舗). Annotations explain that manufacturers register in the industry DB, and retail outlets rely on the industry DB for delivery methods. A specific flow is highlighted for a manufacturer (製薬会社) sending data to the SDP, which then routes it to the RDP and finally to a retail outlet (店舗).

卸はSDPに登録する場合とRDP
に登録する場合がありうる

商品マスター項目標準と伝達方策に関する検討 (WG1)

選択肢2：分散型DBを併用するパターン

凡例



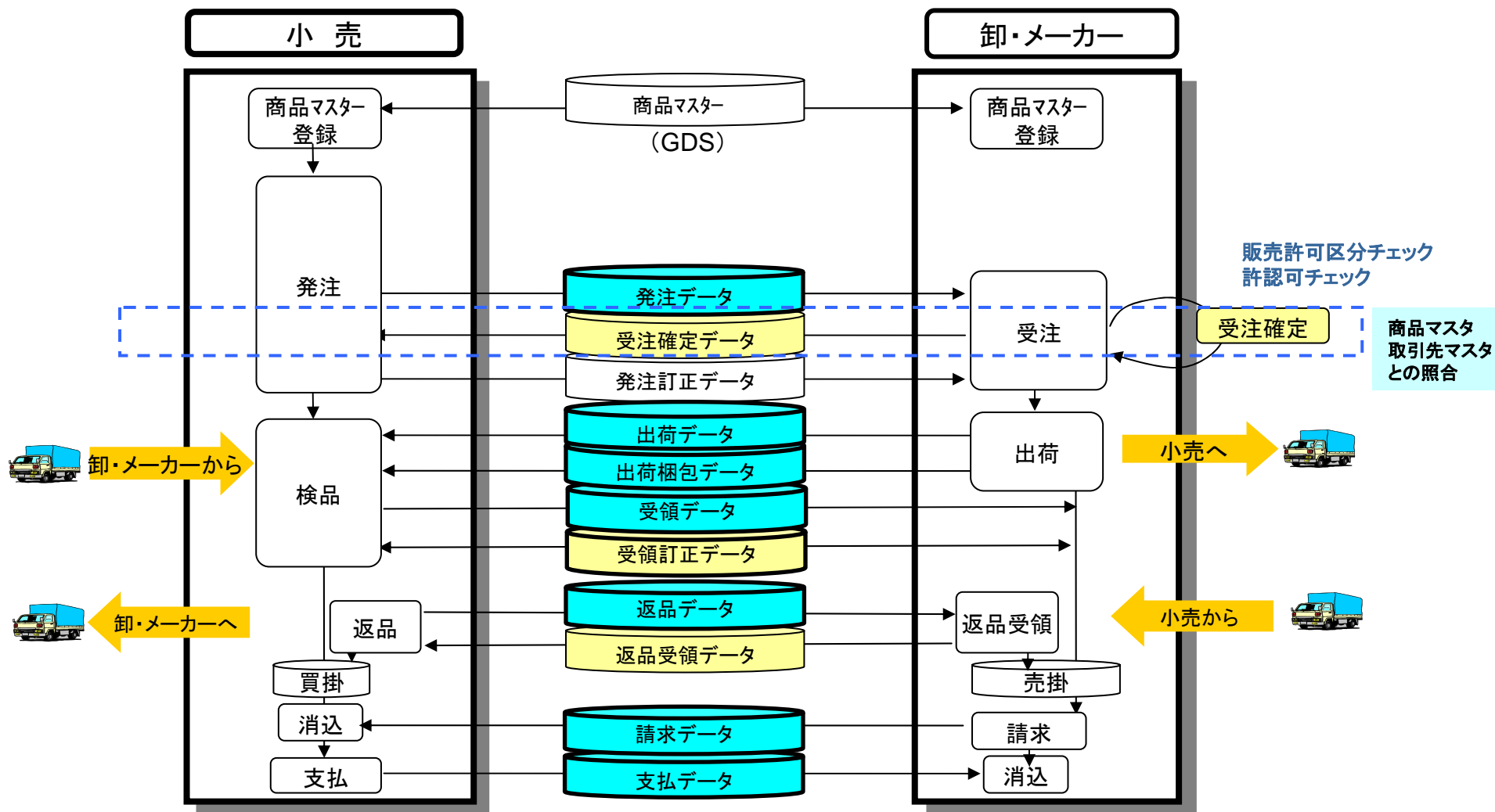
SDP: Source Data Pool(送信者側データプール)
RDP: Recipient Data Pool(受信者側データプール)

EDIメッセージ標準案の策定検討（WG2） 検討する業務プロセスの範囲

経済産業省 平成19年度
流通システム標準化事業

チェーンドラッグストア業界 業務プロセス

水色が付いているデータがver1.0の対象



出所) 流通ビジネスメッセージ標準 運用ガイドラインより加筆・修正

各メッセージの検討結果

■ 基本的に、現在の流通BMSの各メッセージを踏襲する。

■ (発注)次年度検討残課題

- 発注訂正メッセージ(先付け発注に対する、発注訂正メッセージの検討)
 - ◆ 今後、先付け発注は増える見込み、先付け発注に対する発注訂正については次年度に検討

■ (出荷)次年度検討残課題

- 受注確定メッセージの検討
 - ◆ 許認可のない店舗に納品すると、卸が法的責任を問われる。
 - ◆ 販売許認可チェック後の「受注確定メッセージの検討」
- 店別発注ー総量納品プロセスの検討
 - ◆ 本業界で多い、店別発注ー総量納品プロセスの運用の検討について
 - ◆ 流通BMS1.0およびSM業界で検討された集計表作成データでは対応できない。

■ (受領)次年度検討残課題

- 計上日の運用について、「受領訂正メッセージ(卸・メーカー側)」を検討する
- 計上日のついては、請求・支払メッセージも合わせて検討する

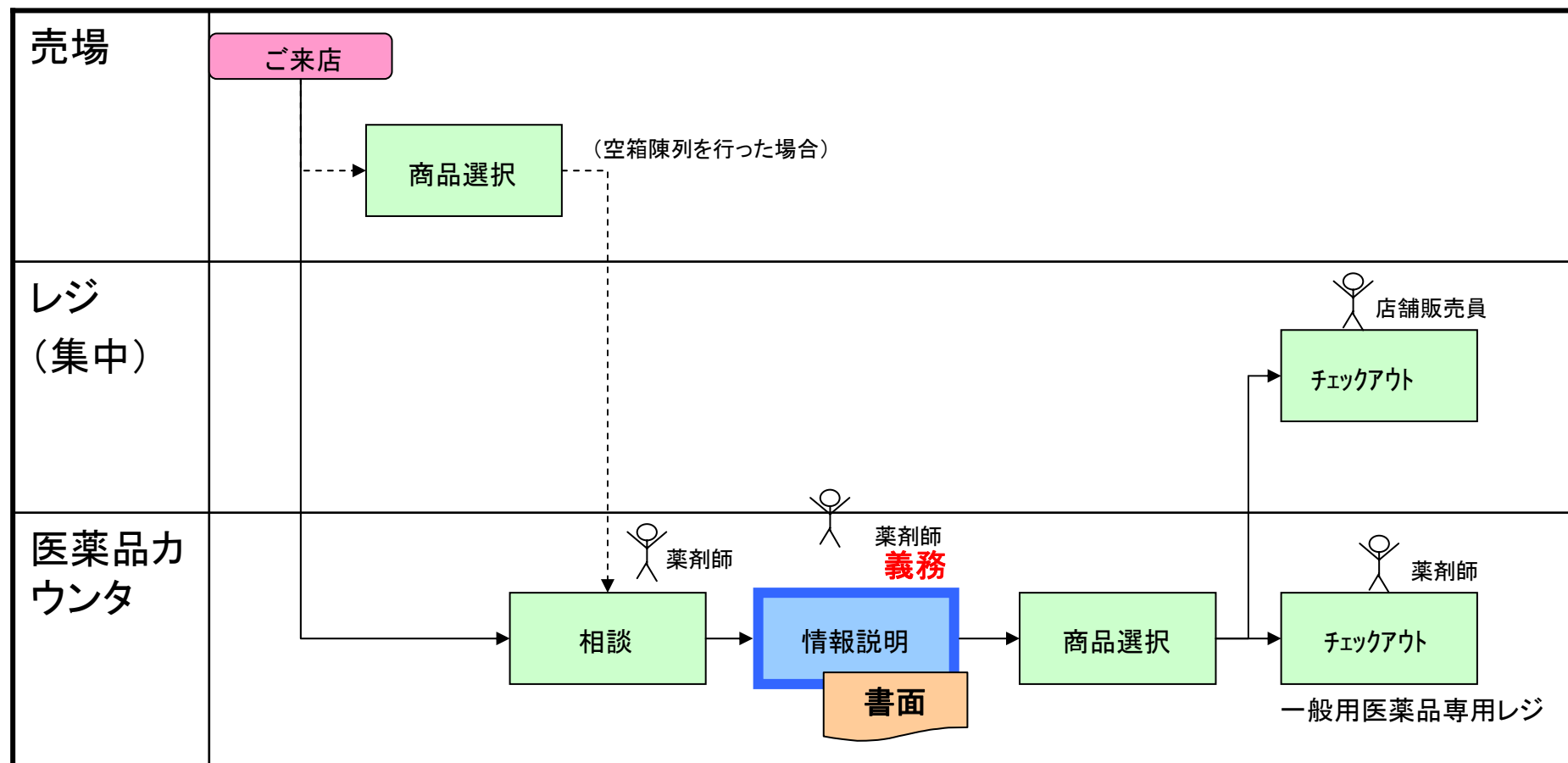
返品－返品受領プロセスの検討結果

- 一般用医薬品では、その所在確認が必要なことから返品～返品受領のプロセスを検討
- 決定事項（本年度WGでの結論）
 - 小売・卸・メーカー間で返品プロセスが統一されておらず、返品の運用に対して大きな課題がある。
 - 返品のプロセス、メッセージの標準化を行う前に返品業務・運用の課題を把握し、対応策をまとめることを当面の目標とする。
- 次年度検討残課題
 - 返品 of 業務モデルの策定
 - ◆ 小売・卸・メーカー間で返品業務がバラバラである。標準モデルを検討するにあたってのたたき台を作成
 - 返品業務における課題の抽出
 - ◆ 上記の返品業務モデルから各プロセスにおける返品業務課題を抽出
 - 返品業務のモデルを策定する
 - 返品－返品受領メッセージの検討

店内での情報提供プロセスと提供に関する検討（WG3）
店頭での消費者への情報提供プロセス

経済産業省 平成19年度
流通システム標準化事業

■ 第一類医薬品の場合の情報提供プロセス（薬剤師が対応）



店頭での消費者に対する情報提供方策の選択肢

説明文書による店頭での情報提供案

| | 情報入手手段 | 情報提供手段 | 必要とされる機能 | 考えられるメリット/デメリット | |
|---------|----------------|--------|--|--|---|
| | | | | メリット | デメリット |
| チェーン/個店 | ネットワーク | パソコン等 | 画面表示（WEBなど） 印刷機能 データ通信機能 情報保存機能 | 安価な機器・形態の選択が出来る 汎用的で操作性が良い 導入しやすい | 本体及びプリンタ設置場所が課題 |
| | | POSレジ | | 機器の流用 場所の追加（プリンタ除く）がいない | チェックアウト業務に影響 POSシステムとのI/F開発費がかかる。 普通紙印刷の場合、別途プリンタが必要 セキュリティチェックなどの環境が必要 （売上機能でのレスポンスへの影響） |
| | | 携帯情報端末 | | 場所をとらない 持ち運びが可能（無線環境） | プリンタ設置場所が課題 文字が小さくて見づらい データを保存する機器が必要 |
| | | 専用端末 | | 操作性、サービスに適した機能の実現 | H/W、開発コストがかかる。 |
| | | 携帯電話 | 画面表示（WEBなど） 印刷機能 データ通信機能 | 場所をとらない（プリンタを除く） 既に持っている場合が多いため 機器の流用ができる。 | 通信が出来ない場合に情報が見れない（印刷が出来ない。） 文字が小さくて見づらい データ保存が難しい 入力しやすい。 （バーコードスキャンの場合仕組みが必要） 携帯会社によって仕様が違う。 （プログラム開発コストがかかる。） |
| 個店 | 配送 媒体（CDなど） | パソコン等 | 画面表示（WEBなど） 印刷機能 | 安価な機器・形態の選択が出来る 汎用的で操作性が良い 導入しやすい | 本体及びプリンタ設置場所が課題 流通コスト、管理に負担 常に最新版とするのは困難 |
| | 配送 紙 | 紙 | システムなし | 店舗でのシステム投資必要なし | 検索や管理が困難（最新管理が困難） 対象製品が増えた場合の対応が困難 |

店内での情報提供プロセスと提供に関する検討（WG3）

商品マスタデータ同期化の店頭での活用案

現状

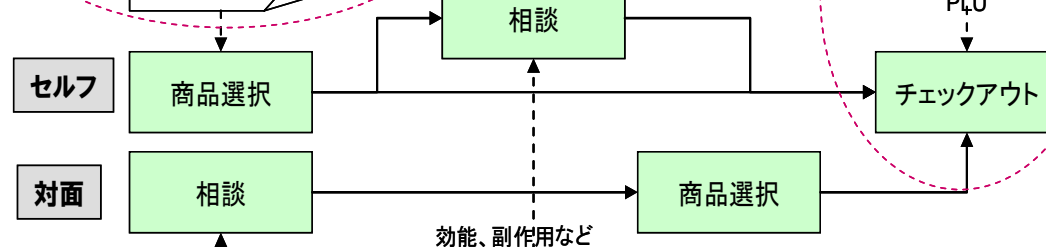
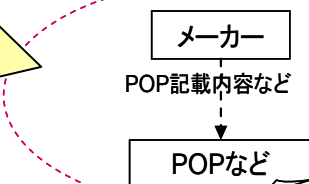
- 情報内容が薬事法に抵触しないことが必要
- メーカーが情報内容を精査

- 小売でも店頭で点検

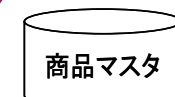
課題

- 小売はメーカーからの正確で規制に合致した情報の迅速な提供を求めている

①POP、販促情報



③チェックアウト時の情報



現状

- 商品コードはJANを採用し、主にPLU、レシート印字のために利用

- POSレジは零細小売でも利用が進んでいる

課題

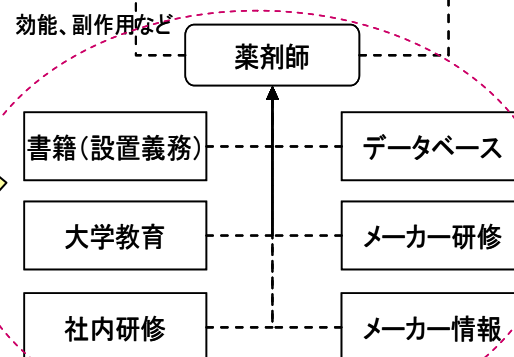
- 単品管理可能だが、有効期限などの個体管理はできない

現状

- 薬剤師の個人的スキルが中心
- 薬剤師を支援する情報・研修は図に示したものがある

課題

- 大学教育だけでは一般用医薬品の特性を踏まえた相談対応が難しい
- 支援情報はいずれの情報源も網羅性、最新性、即時性が揃っていないわけではない



②薬剤師による相談対応

本日のご報告内容

1. チェーンドラッグストア業界における標準化への取組み
のきっかけと狙い

2. 今年度の到達点

3. 今後の予定

■ 次年度は、商品マスターデータ同期化とEDIの 共同実証を実施予定

■ 商品マスター項目標準と伝達方策に関する検討

(説明文書)

- 厚生労働省の指針に基づく、改正薬事法に対応する説明文書関連項目の決定。
- 本番を前提とした顧客への情報伝達方策(実証パターン)の確定。

(商品マスタ)

- チェーンドラッグストア業界で扱う商品で必要となる商品マスタ追加項目に対する、運用を含めた継続検討。
- 本番を前提とする伝達方策(実証パターン)の確定。

■ EDIメッセージ標準案の策定検討

- 返品業務プロセスをベースとした、返品と返品受領メッセージの継続検討。
- 実証に向けての準備。